



2026年5月14日

各位

会社名 株式会社 KADOKAWA

代表者名 取締役 代表執行役社長 CEO 夏野 剛

(コード番号:9468 東証プライム)

問合せ先 取締役 執行役 COO 村川 忍

(TEL. 03-5216-8212)

法人税等調整額(損)の計上および

2026年3月期通期連結業績予想値と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2026年3月期連結会計年度(2025年4月1日～2026年3月31日)において法人税等調整額(損)を計上いたしました。また2025年11月6日に公表しました2026年3月期連結業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 法人税等調整額の計上について

当社は2026年3月期実績および今後の業績見通しを踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、2026年3月期の第4四半期において、法人税等調整額(損)2,868百万円を計上いたしました。

2. 2026年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	278,200	10,300	12,400	4,900	33.34
実績値(B)	282,908	8,102	11,701	1,278	8.71
増減額(B)-(A)	4,708	△2,197	△698	△3,621	
増減率(%)	1.7	△21.3	△5.6	△73.9	
(ご参考)前期実績 (2025年3月期)	277,915	16,651	17,742	7,392	53.87

3. 差異発生 の理由

2026年3月期の連結業績において、売上高は直近の通期連結業績予想値を上回ったものの、利益項目はこれを下回りました。

営業利益における差異は主に、国内出版事業において第 4 四半期の事業構造改革の成果が一定程度見られたものの第 3 四半期に発生した限界利益悪化による差異を埋めるには及ばなかったこと、アニメ事業において 1 タイトル当たりの売上規模が全体としては想定に届かず営業費用の増加分を吸収できなかったこと、ゲーム事業において新作の好調により売上高は想定以上に推移したものの一部タイトルの評価損を計上したこと等によるものです。一方で、為替差益の発生を主因として経常利益における差異は営業利益より小さくなりました。

また、純利益においては上記に加え、来期業績予想等を踏まえた繰延税金資産の回収可能性見直しにより法人税等調整額が増加したことが大きく影響しました。

なお、2027 年 3 月期以降は国内出版事業における事業構造改革の成果が通期で寄与することによる業績改善を見込んでおります。またアニメ事業においても 1 タイトル当たりの売上規模向上に向けた取り組みを進めてまいります。

以 上